

少子高齢化社会の安心対策特別委員会記録

<p>1 会議の日時</p>	<p>令和元年12月18日</p> <p>開 会 午前 9時58分</p> <p>閉 会 午前11時23分</p>	
<p>2 会議の場所</p>	<p>厚生環境委員会室</p>	
<p>3 出席者</p>	<p>委員</p>	<p>委員長 尾藤義昭 副委員長 森 正弘</p> <p>委員 松岡正人 山本勝敏 林 幸広</p> <p>水野吉近 国枝慎太郎 中川裕子</p> <p>今井政嘉</p>
	<p>執行部</p>	<p>別紙配席図のとおり</p>
<p>4 事務局職員</p>	<p>係 長 市川圭司</p> <p>主 査 上野由香</p>	

5 会議に付した案件

件名	審査の結果
<p>1. 少子高齢化社会の安心対策に関する調査について ○「子どもを産み育てやすい地域づくり」について 参考人 一般社団法人日本少子化対策ネットワーク 代表理事 安藤 摩里 氏</p> <p>2. その他</p>	

6 議事録（要点筆記）

○尾藤義昭委員長

ただいまから、少子高齢化社会の安心対策特別委員会を開会する。本日の委員会は、少子高齢化社会の安心対策に関し、今年度の調査項目のひとつとしている「女性が活躍し、子どもを産み育てやすい地域づくり」についてを議題とし、ご協議いただくため開催したものである。

本日は、執行部のほか、議題について、現状と展望をご報告いただくため、一般社団法人日本少子化対策ネットワーク 代表理事 安藤摩里さんにご出席いただいている。

安藤様には、大変ご多忙中のところお越しいただき、感謝を申し上げたい。

安藤様は、子育て中のお母さん方が孤立しないよう子育て応援カフェの開設や情報誌の発行など、美濃加茂市を中心に幅広く取り組んでいらっしゃる。是非、活発な意見交換ができればと思うので、よろしくお願ひしたい。

質疑については、報告終了後にお願ひしたい。

（報告 参考人 安藤摩里氏）

○尾藤義昭委員長

ただいまの報告に対して、何かご質問等はないか。

○水野吉近委員

ファミリー・サポート・センター事業は、サポート会員がいないと成立しないと思うが、現状はどうか。

○安藤参考人

事業の委託を受けて2年目となる。市が直接事業を行っていた時はサポート会員の高齢化が悩みだと聞いていたが、委託を受けてから、情報誌を活用したPRなどにより、40～50代のサポーターの登録が増えた。現状、サポート会員が足りないことを理由にお断りすることはほとんどない。

○水野吉近委員

サポート会員は自宅で面倒を見るのか。

○安藤参考人

最近では、子育て支援センターなど公共の場で預かることが多い。

○水野吉近委員

コワーキングスペースはどのように使われているのか。

○安藤参考人

1階は、起業者などの利用者が交流したり、打ち合わせをするためのスペース。2階は、セミナーなどを開催できるスペースで、女性の利用者が多い。3階は男性の利用者が多く、プログラマーやデザイナーなど、フリーランスの方が利用している。そこから受注が増えて、大きな会社になっている方もいる。

○国枝慎太郎委員

子育て後にキャリア形成し、収入を得るといのはわかるが、そのことと子どもを増やすことがデー

タとして結びつくのか。

また、夫の扶養控除範囲内で働く「130万の壁」について、その範囲内で働く場合、企業側からすると、時給を上げることで勤務時間が減り、人を雇用しなければならず、製造業が多い岐阜県では大きな壁となっている。根本的に改革が必要だと思うが、どう考えるか。

○安藤参考人

収入の増が子どもの増につながるデータがあるわけではないが、母親には、働かなかったとしても社会とは関わっていたいという気持ちを持っている方が多く、社会と関わることが安心感につながり、子どもをもう一人産もうという気持ちになるという一面もあると思う。家事・育児も十分に大変であり、働く必要があるわけではない。

また、AI等を活用することにより、短時間でできる仕事が出てくる。実際に、短時間で集中した方が、よい仕事ができる場合は多い。すぐに実行は難しいかもしれないが、企業にとっても短時間勤務が増えることで人件費は減るし、経営も安定するのではないかと思う。

○山本勝敏委員

各地域の子育てカフェ同士の繋がりはあるのか。

○安藤参考人

あると思う。女性の起業は「お母さんたちを安心させたい」等の共通する目的を持っていることが多く、情報交換によって様々な取組みが増えればよいと思う。

○山本勝敏委員

「しつけの外注化」の課題や「3世代同居推奨」には同感であるが、育児には何歳ぐらいまで母親が関わったほうがよいと考えるか。

○安藤参考人

母親や子ども、兄弟の数などの状況にもよるため、一概に何歳までがというのは決められない。また、働いていたとしても、子どもの変化に気付ける余裕があればよいと思う。

○山本勝敏委員

ある子育てカフェでは収入がなくて家計にも影響が出たと聞いているが、たくさんの事業を手掛ける中で金銭的な心配はなかったか。

○安藤参考人

起業した当初は赤字だったが、家計には影響の出ない範囲でやっていた。その後、収入が増え、その収入でカフェを運営することにした。カフェは無報酬で、他の事業の収入で成り立っている。

○山本勝敏委員

一般社団法人も運営されているが、法人だけで収支が成り立っているのか。

○安藤参考人

設立後3年で黒字化するという当初の計画どおりになっている。

○今井政嘉委員

下呂市では、女性の働き方改革ということで3年前にNPO法人を立ち上げ、コワーキングスペースも市で準備したが、補助金がなくなってからはあまりうまくいっていない。スキルアップなども含めて

NPO法人のコーディネートをお願いすることはできるのか。

○安藤参考人

女性はフットワークが軽いが、子供のライフステージによって状況が変わり、継続できないことが多い。そのため、数年で人を入れ替えることでうまくいくこともある。やる気のある人がやらないと良いものがないと思う。

○今井政嘉委員

仕事をそのNPO法人に任せてくれるような企業がないことも課題の一つ。

○安藤参考人

美濃加茂市では商工会議所が紹介してくれる。また、自分も企業に対し営業を行っている。

○松岡正人委員

以前と比べて今の子育て世代は、男性は家事や育児に関する相応の負担をしなければならないという感性が出てきている。また、働き方改革で男性の労働時間も短くなってきていることから、男性の家事・育児の参画のためにスキルを持たせるべきではないか。

○安藤参考人

イクメンが増えてきているが、まだ女性が家事・育児の主となっていることが多い。男女どちらが主となってもよいが、男性が手伝う場合、女性はその段取りなどの、目に見えない負担がまだまだある。

○松岡正人委員

指導してもらえないとできない男性もおり、男性へのアプローチもしてもらえるとよいと思う。

○安藤参考人

男性には、得意なことをやってもらえればよく、例えば子どもと一緒に遊んで運動することも家事参加、育児参加につながるのではないか。

○林幸広委員

少子化対策として、晩婚化に対してはどのような取組みが必要だと思うか。

○安藤参考人

家庭の愚痴を聞かされることで、結婚に夢を持っていない人が多いため、幸せな家庭のイメージを持てる機会があるとよいと思う。毎月1回集まりスポーツを楽しむ団体を作ったが、その中から結婚する人が出てきた。継続して開催することで、結婚した人たちが子どもを連れてきて、それを見て結婚も良いと思えるようないい流れができるとよいと思う。

○中川裕子委員

世界的に見て日本は起業する人の割合が少なく、中でも女性の割合は少ないが、周りには起業したい女性が多い。女性の起業におけるハードルは何か。また、起業した人の特徴は。

○安藤参考人

男性の起業が少ないのは、終身雇用制度が要因ではないか。また、女性の起業が少ないのは、以前は趣味と位置付けられたような起業が多く、起業と認識されていなかったからではないか。この起業と認識されてこなかったことがハードルだと思う。

起業した人の特徴としては、自分の思いが強くあり、人に言われたことを聞くだけではない人。また、

家族の理解も必要。

○中川裕子委員

不妊治療への支援の要望をされる方や、治療を途中で断念される方は多いが、現状をどう考えるか。

○安藤参考人

数字で状況を把握しているわけではないが、同世代の現場の声を聞き、資料に入れたもの。不妊治療については、今後調べたいと考えている。

○尾藤義昭委員長

質問等も尽きたようなので調査項目については終了する。なお、本日の議題は終了したが、この際、他に何かご意見等よろしいか。また、執行部の方、よろしいか。

(発言するものなし)

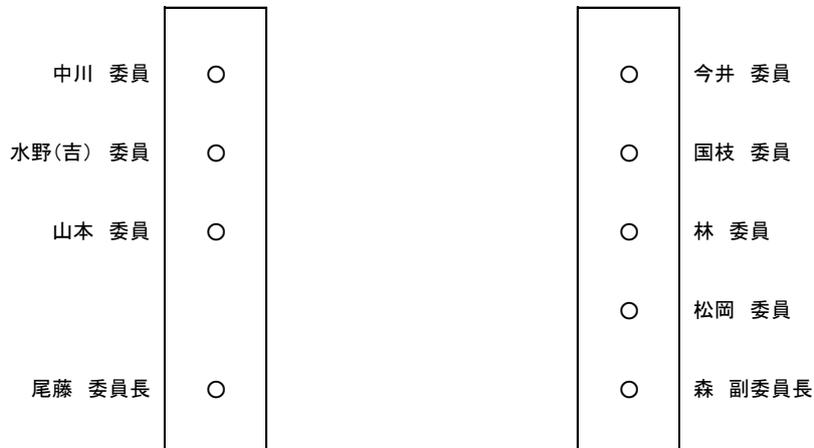
○尾藤義昭委員長

ご意見もないようなので、これをもって、本日の委員会を閉会する。

少子高齢化社会の安心対策特別委員会 配席図

令和元年12月18日(水) 午前10時～
厚生環境委員会室

									出入口
				渡邊 商業・金融課 経営支援対策監	奥村 子育て支援課 主幹				
関谷 障害福祉課長	植野 地域福祉課長	森 医療福祉連携推進 課長	三輪 国民健康保険課長	伊藤 医療整備課長	古田 子育て支援課長	山田 子ども家庭課長	崎浦 男女共同参画・女性の 活躍推進課 男女共同参画推進監	伊左治 子育て支援課 少子化対策企画監	
浅井 健康福祉政策課長	加納 健康福祉部次長 兼保健医療課長	長沼 健康福祉部次長	堀 健康福祉部次長	兼山 健康福祉部長	北川 子ども・女性局長	安江 子ども・女性局 副局長	赤地 男女共同参画・女性 の活躍推進課長	参考人席	



出入口